

【事業報告書】

I 次代を担う青少年の健全な育成に資する事業（公益目的事業1）

1. イオン チアーズクラブ(予算：2億6,000万円、実績1億7,860万円)

自然環境や社会貢献活動などに興味や関心を持ち、考える力を育む場として、小中学生を中心に国内約 420 の店舗等を拠点に体験学習を行っています。各クラブは独自のテーマに沿って活動を行い、1年間の成果を壁新聞に取りまとめています。

2023年度までの累計メンバー数は、106,345名となります。

(1) 本年度の主な取り組み

①2023年4月から2024年3月までの1年間に、イオンリテール(株)やイオンモール(株)の店舗を拠点とするクラブを中心に、合計で約3,400回の活動を実施しました。また、各社の環境・社会貢献活動の責任者や、各店のチアーズクラブのコーディネーターとの会議を月例で行い、情報の共有と活動内容の充実を図りましたが、会員数の増加や事業計画の推進には課題を残す結果となりました。

一方、新しくクラブを発足させたイオングループ企業の取り組みや、各社の特性を活かした新しい体験プログラムが生まれ、責任者も育って来ておりますので、これをさらに拡げて行きたいと考えております。

②(株)カスミでは、茨城県つくば市を拠点に2023年4月よりチアーズクラブの活動を開始し、「食の循環」をテーマに、筑波大学と共同の下、田植えから稲刈り、店舗でのお米の販売体験を行うなど、2024年3月までに14回の活動を実施しました。

③ウエルシアホールディングス(株)は、2022年9月に活動を開始した茨城県つくば市に続いて、2023年6月に静岡市で新たなクラブを発足させ、お茶摘み体験(6月)やこども薬剤師体験(11月)を行うなど、活発に活動を行っています。

④イオンアグリ創造(株)と連携し、年間を通して、とうもろこしの種まきや、さつまいもの苗の定植など栽培から収穫までの一連の過程を体験できる、「チアーズ農園」を2023年4月、イオン茨城牛久農場内に開園させました。

⑤イオンフィナンシャルサービス(株)と連携し、開発した金融教育プログラム「わくわくキャッシュレス体験」を、前年のイオンモール幕張新都心、イオンモール福岡に続き、イオンモール白山(8月)、イオンモール札幌平岡(10月)で開催しました。両会場とも一日当たり、500人を超える子どもたちと保護者の方々が参加されました。

⑥イオンディライト㈱と連携し、体験プログラム「もしものときの防災教育」を2024年3月、イオンモール幕張新都心で開催し、近隣4クラブのチアーズクラブメンバーが、起震車や煙体験ハウス等による訓練を行いました。

⑦各クラブが1年間の活動成果をまとめた壁新聞について、入賞した25クラブのチアーズクラブのメンバー102名とコーディネーター25名が、2023年7月31日（月）から8月2日（水）に、「イオンチアーズクラブ全国大会」会場の北海道ニセコ町に集まりました。

壁新聞を通じた各クラブの活動状況の共有、洞爺湖有珠山ジオパークでの自然観察、酪農における環境に配慮した取り組みの学習等を行い、各クラブの子どもたちやコーディネーターの皆さんが、他のクラブの取り組みについて直接話を聞き、自分たちのクラブの今後の活動について考える良い機会となりました。

2. 中学生作文コンクール（予算：3,000万円、実績：2,870万円）

多感な時期といわれる中学生が環境保全や社会貢献活動をテーマに自分自身の考えをまとめ、書く力を養うことを目的に2003年から実施しております。2023年度は7,787作品が寄せられ、累計応募数は25,123作品となります。

（1）本年度の主な取り組み

①「地球環境のために今できること」をテーマにホームページやポスターで募集を行うとともに、全国の中学校に郵送やメールでご案内しました。また、過去に応募実績のある学校には、お電話でも併せてご案内しています。

②新たな応募喚起策として、文部科学省、環境省に加えて、「朝日中高生新聞」にご後援いただきました。これらの結果、7,787作品の応募をいただきました。

③2023年10月に、外部審査員による審査を行い、金賞、銀賞、銅賞各10作品を選出しました。また、本年度は中学校あての団体賞を新設し、各校の応募作品数合計に応じ、図書カードを進呈しました。

2023年11月25日（土）に国連大学で開催した表彰式には、金賞受賞者10名と保護者の方々をご招待しました。式の終了後、翌26日（日）にかけて、環境に関連する施設を周るツアーを都内で実施し、環境問題への関心を高めていただきました。

（2）募集期間：2023年7月3日（月）～9月22日（金）

（3）後援：文部科学省、環境省、朝日中高生新聞

3. イオン エコワングランプリ（予算：5,500万円、実績：4,820万円）

全国の高校生がクラブ単位で環境に関する活動の発表を行い、表現力や発信力を向上させるとともに、優れた事例を見聞きすることで新たな取り組みの実践につなげることを目的としています。2012年度から開催し、2023年度までに1,560クラブの応募をいただいています。

（1）本年度の主な取り組み

- ①ホームページでの募集に加えて、全国の高校に郵送やメールでご案内するとともに、過去に応募実績のある高校や農業学科等の専門学科に対してお電話でご案内しました。この結果、昨年より22クラブ多い134クラブにご応募をいただきました。
- ②2023年12月9日（土）の最終審査会には14クラブが参加し、各クラブの代表者による発表と質疑応答が行われました。審査員4名による選考の結果、6クラブが内閣総理大臣賞を含む各賞を授与しました。受賞クラブには、賞状と活動奨励金をお渡ししています。
- ③新たな取り組みとして、表彰式翌日の12月10日（日）に環境エコツアーを開催しました。最終審査会参加者を対象に国立環境研究所室長の五箇公一氏を講師に「生物多様性と私たちの生活」をテーマとしたセミナーとワークショップを行うとともに、国立科学博物館教育園で園内の植物観察や気候変動が植物に与える影響を学ぶフィールドワークを実施し、環境問題への新たな気づきの機会となりました。

（2）募集期間：2023年7月3日（月）～9月19日（火）

（3）共 催：（公財）イオン環境財団、毎日新聞社

（4）後 援：文部科学省、環境省

4. 学校建設支援（予算：2,000万円）

「平和な社会の実現には基礎教育の充実が不可欠」という想いのもと、アジア各国において教育施設の整備を支援することを目的に、2000年度に事業を開始しました。全国の店頭募金とイオンワンパーセントクラブからの拠出金を活用し、2022年度までにカンボジア、ネパール、ラオス、ベトナム、ミャンマーの5か国で426校の学校が完成しました。

（1）本年度の主な取り組み

- ①支援を予定していたミャンマーの政情不安が継続していることから、連携先である（公財）日本ユニセフ協会と協議の上、代替する事業活動として、教材の配布や教員研修等を実施しております。

5. イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

(予算：4,250万円、実績：5,240万円)

カンボジア、ミャンマー、ラオスの一部地域では、不衛生な池の水や、健康を害する恐れのある物質を含んだ地下水が生活用水として使われています。

また、安全な水を確保するために多くの子どもたちが遠方への水汲みに時間をとられ、学校に通えない状況が続いています。

これらの地域に安全な水を届け、子どもたちが水汲みをしなくても済むよう、2010年より全国での店頭募金と寄附金の拠出を開始し、(公財)日本ユニセフ協会と共同で給水施設の設置等を行っています。

(1) 本年度の主な取り組み

①イオングループの店舗等で募金活動を実施し、お客さまからの募金は2,000万円の計画を大きく上回る2,596万9,930円となりました。これに当財団が同額を上乗せし、総額5,193万9,860円を、(公財)日本ユニセフ協会を通して寄附しました。寄附金額と同額を(公財)日本ユニセフ協会が拠出し、総額1億387万9,720円が、事業の実施に充てられます。なお、2023年7月7日(金)に同協会にて贈呈式を実施しました。

②2023年11月下旬、当財団担当者がカンボジアのコンポンスプー州を訪問し、支援状況をモニタリングしました。現地では、給水施設の設置等により、現地の人々が安全な水を使えるようになったことを確認できました。

なお、支援対象地域は、次の通りです。

- a. カンボジア コンポンスプー州、ラタナキリ州、スヴァイリエン州、タケオ州
- b. ミャンマー カレン州

(2) 募金期間：2023年4月10日(月)～5月14日(日)

II 諸外国との友好親善の促進に資する事業（公益目的事業2）

1. ティーンエイジアンバサダー（予算：1億2,600万円、実績：9,290万円）

将来を担う日本と海外の高校生が、互いの国を訪問して友好親善を深め、両国の架け橋となることを目指す交流プログラムです。1990年から2023年までに、アジア各国を中心とする、18か国、2,521名の高校生が参加しています。

（1）本年度の主な取り組み

①日越外交関係樹立50周年を記念し、日本から50名、ベトナムから50名、計100名の高校生が参加しました。参加校は以下の通りです。

a. 日本 5校 各10名

市立札幌開成中等教育学校（北海道）、筑波大学附属坂戸高等学校（埼玉県）
京都市立日吉ヶ丘高等学校（京都府）、金光学園中学・高等学校（岡山県）
沖縄県立那覇国際高等学校（沖縄県）

b. ベトナム 5校 各10名

リー・トゥオン・キエット高等学校、キム・リエン高等学校、グエン・フエ高等学校
（3校ともにハノイ）
レ・クイ・ドン高等学校、マリーキュリー高等学校（両校ともにホーチミン）

②日本プログラム：2023年11月13日（月）～18日（土）

a. 首相府を表敬訪問し、岸田首相よりご挨拶をいただきました。

b. 駐日ベトナム大使館で外交官と交流会を実施し、歓迎会を開催しました。

c. 歴史・文化活動では、浅草での着物体験や、各地域での文化体験を通して、日本の文化について理解を深めました。

d. 札幌・埼玉・京都・岡山・那覇に分かれて、授業体験やホームステイを実施しました。

③ベトナムプログラム：2024年1月15日（月）～20日（土）

a. 首相官邸を表敬訪問し、チャン・ルー・クアン副首相よりご挨拶をいただきました。

b. 在ベトナム日本国大使館では山田滝雄大使との交流会を実施しました。

c. 日越大学の古田学長より、日越関係の歩みをテーマに特別講義をしていただきました。

d. ベトナムの料理教室や、史跡見学を通じて歴史・文化体験を実施しました。

e. ハノイとホーチミンに分かれて、授業体験やホームステイを実施しました。

今回のプログラムを通して、高校生たちは相手国について深く理解し、国境を越えた友情を育むことができました。

2. アジア ユースリーダーズ（予算：5,600万円、実績：5,010万円）

アジアの将来を担う高校生たちがグローバル感覚を養い、価値観の多様性を学ぶとともに、リーダーに必要な問題解決力や自発的な行動力を高めることを目的に、2010年に開始しました。参加者の各国を開催国とし、共通の社会問題について英語で議論するプログラムで、2021年から2023年は、「脱炭素社会の実現に資する持続可能な食の未来づくり」をテーマとして取り組みました。2023年度までの累計参加者数は、9か国、1,216名となります。

（1）本年度の主な取り組み

- ①2023年8月21日（月）～25日（金）、80名の高校生が東京に集まり、「食品メーカーが取り組むべきCO2削減」をテーマに基調講演やチームディスカッションを行った後、高校生視点で食品メーカーが取り組むべきCO2削減に関する提言を実施しました。高校生たちは、チーム活動を通して異なる価値観を持つ同世代の仲間たちと友情を深め、再会を約束していました。
- ②事前学習として、新たに英語でのディスカッションのコツやリーダーシップに関する講義を実施しました。参加者たちからは、今後も学業で活用できる知識やスキルを沢山身に付けることができ、感銘を受けたとの感想が寄せられました。

【参加した高校生の国別人数】

インドネシア7名、カンボジア7名、タイ7名、中国7名、日本30名、ベトナム8名、マレーシア7名、ラオス7名、計80名

3. イオン スカラシップ（予算：2億3,050万円、実績：2億1,440万円）

アジアの大学生を対象に、将来日本と母国の架け橋となることを目指す学生を支援する目的で2006年に開始しました。2024年3月までに、のべ8,821人の学生に奨学金を給付しています。授業料と生活費の補助金を給付している他、奨学生同士の交流や宿泊研修カリキュラム、ボランティア活動などの機会を提供しています。また、母国と日本との架け橋を目指す学生たちに、日本を良く知り、日本語学習を奨励するため、奨学金事業の一環として、2015年より日本語スピーチコンテストを実施しています。

（1）本年度の主な取り組み

- ①日本
 - a. 2023年7月15日（土）、イオン スカラシップ奨学生57名を対象に、奨学金認定証授与式を開催しました。当日は、当財団理事長のほか、各大学代表者、各国駐日本国大使館の代表者、寄附企業の代表者も参加し、交流を深めました。
 - b. 2023年9月に実施したフォローアップセミナーでは、（公財）イオン環境財団が主催する「宮城県石巻市植樹」に参加後、環境保全活動に関する講義とディスカッションを行いました。
 - c. 2024年1月には、「就職活動支援セミナー」を実施し、日本で就職を希望する学生に、日本独特の就職活動に役立てていただくための講義や、模擬面接、OB（先輩奨学生）からのアドバイス等を行いました。参加者たちは活発に質問し、真剣にメモを取るなど、熱のこもったセミナーとなりました。

②中国・アセアン各国

インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、ミャンマーの各国で学ぶ現地の大学生 444 名に奨学金を給付し、2023 年 11 月～2024 年 3 月に授与式と交流会を開催しました。授与式には、当財団理事長のほか、各大学代表者、各国駐日本国大使館の代表者、寄附企業の代表者の皆さまにも出席いただき、奨学生と交流を深めました。

(2) 日本語スピーチコンテスト

①2023 年 4 月～5 月、イオンスカラシップの一環として、日本語スピーチコンテストを北京大学、北京第二外国語学院、青島大学、中国海洋大学、武漢大学、深圳大学にて開催しました。在中華人民共和国日本国大使館、在青島日本国総領事館の代表者や各大学の日本語教師が審査員として参加し、各大学より上位入賞者 5 名を選出しました。

②2023 年 7 月 24 日(月)～29 日(土)、中国から 35 名の大学生を日本に招待し、研修を行いました。研修では、中華人民共和国駐日本国大使館を訪問し、呉 江浩大使から激励のお言葉をいただいたほか、東京大学では日本人学生とディスカッションを通して交流をしました。また、盆踊りや寿司づくりなど、日本の文化について体験しました。

Ⅲ 地域社会の持続的発展に資する事業（公益目的事業3）

1. ふるさと未来支援（予算：1億2,000万円、実績：9,020万円）

地域社会の一員として、子どもたちの健全な育成とともに、未来に引き継ぐべき無形文化財、無形民俗文化財の保存、振興、継承の支援に取り組みます。また、少子化や核家族化が進み、地域とのつながりが希薄化する中で、乳幼児から未就学児の子育てをしている人々が絆を深める機会を提供し、より良いコミュニティづくりを支援します。

（1）地域文化・工芸技術の普及啓蒙・継承支援

①本年度の主な取り組み

- a. 2023年4月1日（土）から2024年3月31日（日）までに実施予定の、地域の伝統文化・工芸技術の普及啓蒙・継承支援に関する案件を公募し、外部審査員による選考の結果72団体を支援しました。
- b. 秋田県の竿燈祭りや兵庫県の恵美酒宮天満神社秋祭りなど、これまで実績のない行事や団体が、新たな支援先に加わりました。
- c. 愛知県の招き猫祭り、福岡県のお祭り飯塚山傘など、一時行事を中止していた団体からの再申請もあり、昨年より支援団体数が増えています。
- d. 現在、一部で応募の少ない地域があるため、公募を強化してまいります。

（2）イオン すくすくラボ

①本年度の主な取り組み

- a. 地域の子育て世代をサポートするべく、乳幼児から未就学児（0～3歳児）の子育てをされている方を対象に、育児に関するセミナーや個別相談会を実施しました。
【実施日】
2023年11月12日（日）狭山市民交流センター（埼玉県狭山市）
2024年2月25日（日）イオンモール富谷（宮城県富谷市）
- b. 行政と連携を図り、地元の助産師を推薦いただくなど、地域と一体となった活動になるよう努めました。また、子育て中の不安や悩みを気軽に相談できる場とし、参加者同士が交流を図れるプログラムを組み立てました。
- c. 各会場では、イオンリテール(株)やベビー用品のメーカーにご協力をいただき、ベビーカーやミルク等の展示を併せて行いました。

2. 災害復興支援（予算：2億5,000万円、実績：3億2,650万円）

大規模災害により被災した方々が、日常の生活を一日でも早く取り戻せるよう、復旧・復興を支援しています。国内外で発生した災害の被災地において、復旧・復興活動にお役立ていただくため、迅速な緊急支援金の寄附等を行っています。

（1）トルコ・シリア大地震支援

- ① 支援趣旨：トルコは、東日本大震災が発生した際、他の国に先駆けて支援を行い、当財団の寄附企業も物資の援助を受けました。そのことへの感謝も込めて、2023年2月に発生したトルコ・シリア大地震で、被災した子どもたちを支援するため、いち早くトルコ大使館に支援金を寄附しました。その際、コルクット・ギュンゲン駐日大使に、被災者が必要とする物資についてお伺いし、イオン(株)、及びイオンリテール(株)の商品部のご協力のもと、ご要望のあった毛布と寝袋を寄附しました。また、2023年5月に、被災したシリアの子どもたちに対して、寄附を行いました。

② 支援内容：以下の支援金、及び支援物資を寄附しました。

2023年2月14日(火)	支援金	1,000万円	トルコ大使館にて
2023年3月10日(金)	支援物資	5,400万円相当	”(毛布6,000枚、寝袋2,000枚)
2023年5月23日(火)	支援金	3,500万円	日本ユニセフ協会にて
総額		9,900万円	

なお、イオングループは、店頭募金を含めて3億7,100万円の支援金を寄附されており、イオンワンパーセントクラブの支援分を加えた支援合計は、4億7,000万円となります。

(2) 首里城復興支援

① 支援趣旨：2019年10月に発生した大規模な火災により、甚大な被害を受けた世界遺産の首里城(沖縄県)について、火災の発生から5年間にわたって5億円の支援金を沖縄県に寄附し、復興を支援するものです。

② 支援内容：本年度は、以下の支援を実施しました。

- 本年度は、2023年11月3日(金)沖縄県に復興支援金1億円を贈呈しました。
- あわせて、全国のイオンチアーズクラブのメンバーを対象とし、首里城を描いたポスターコンクールを実施しました。全465作品の中から、優秀作品を描いたメンバーを首里城へ招待し、表彰式を開催しました。式には玉城デニー知事にもご出席いただき、会場には地元マスコミの記者も多数来場されました。
- 作品の展示は、首里城内記念館の他、旭川西(北海道)、幕張新都心(千葉)、飯田アップルロード(長野)、三木青山(兵庫)、倉敷(岡山)、大野城(福岡)の6つのイオンの店舗をキャラバンする方式で実施し、各地域の多くの方々にご覧いただきました。

(3) 能登半島地震支援

① 支援趣旨：2024年1月に発生した能登半島地震の被災地に対し、被災前の日常への復興復帰を支援するもので、被害の大きかった3県に対して支援金を寄附しました。

② 支援内容：以下の支援金を寄附しました。

2024年2月26日(月)	石川県あて	1億6,000万円	石川県庁にて
2024年2月27日(火)	富山県あて	2,000万円	富山 ”
2024年3月6日(水)	新潟県あて	2,000万円	新潟 ”
総額		2億円	

なお、イオングループは、店頭募金を含めて9億6,450万円の支援金を寄附されており、イオンワンパーセントクラブの支援金を加えた金額の合計は、11億6,450万円となります。

3. 青少年育成活動団体（公益法人）への支援（予算：1,500万円、実績：1,500万円）

地域の発展に貢献するとともに、子どもたちの情操教育に繋がる活動として、青少年育成活動団体への支援を継続的に行ってまいります。

（1）（公財）パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会への支援

（予算：1,000万円、実績：1,000万円）

① 本年度の主な取り組み

（公財）パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会が主催する当フェスティバルにメインスポンサーとして協賛するとともに、新たな取り組みとして、北海道内のチアーズクラブメンバーたちがコンサート運営のお手伝い（プログラムの配布や、席へのご案内など）をし、またリハーサル室の見学、オーケストラメンバーと交流するなど、支援先と連携した活動を実施しました。

②実施期間：2023年7月12日（水）～8月1日（火）

③支援対象：パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌

（2）（公財）サイトウ・キネン財団への支援（予算：500万円、実績：500万円）

①本年度の主な取り組み

（公財）サイトウ・キネン財団が主催する当フェスティバルに協賛するとともに、新たな取り組みとして、長野県内のチアーズクラブメンバーたちがコンサート運営のお手伝いをするるとともに、楽屋や舞台装置の見学をさせていただくなど、支援先と連携した活動を実施しました。

②実施期間：2023年8月19日（土）～9月6日（水）

③支援対象：セイジ・オザワ松本フェスティバル

管理費（法人会計）

1. 広報活動（予算：8,000万円、実績：7,270万円）

(1) 概要書・活動季刊誌

①本年度の主な取り組み

- a. 活動季刊誌「イオン1%クラブ」を2023年2月、6月、9月、12月に発行し、当財団の活動をタイムリーに発信することが出来ました。
- b. 事業参加関係者や寄附者を中心に冊子を配布したほか、冊子を電子化し、メールマガジンとして配信しました。
- c. 各事業の内容がわかる紹介映像について、日本語版と英語版を作成し、各国での事業実施時に活用することで、当財団と事業活動の認知度向上を図りました。

②配布対象：事業参加者、学校、各国大使館、各省庁、取引先、寄附者（法人含む）、マスコミ他

(2) ホームページ

①本年度の主な取り組み

- a. ホームページの訪問者数を増やし、事業への理解を促進するため、改修を実施しました。トップページに事業の全体像を掲載し、そこから各事業のページを選んでいただけるよう構成を変更することで、初めて訪問された方々でも目的の情報にたどり着きやすいホームページとなりました。
- b. インスタグラム等の SNS 動画配信やネット広告に取り組み、当財団ホームページの閲覧回数と訪問回数の増加を図りました。SNS 動画配信では、各事業の取り組みを動画で説明することで、子どもたちが楽しみながら学ぶ姿をわかりやすく伝えています。ネット広告では、当財団の事業参加者及び保護者に親和性の高いインスタグラムのほか、社会貢献に関心のある方に幅広くアプローチするため、グーグルでの無料告知（Ad Grants）を開始しました。
ホームページの訪問者数は2024年5月末時点で14,600（前年比244%）となりました。3年後を目途に、月間30万ビューを目指します。
（ご参考 （公財）日本ユニセフ協会の月間ビュー数28万3,000）

(3) 海外イベントへの参加

①本年度の主な取り組み

各国の大使館や省庁が主催する各国のフェスティバルに協賛・出展し、当財団の活動の周知に努めるとともに、各国の大使館・省庁との連携強化を図りました。出展ブースでは、来場者や他の出展者との交流を通して諸外国への理解を深めました。

タイ	4/29（土）～5/1（月）、	カンボジア	5/3（水）～5/4（木）、
ベトナム	6/3（土）～6/4（日）、	中国	9/9（土）～9/10（日）、
インドネシア	10/14（土）～10/15（日）		

2. 団体会費（活動支援の寄附として）

- | | |
|-------------------|------|
| (1) ジャパンプラットフォーム | 30万円 |
| (2) (公財) 花と緑の農芸財団 | 22万円 |
| (3) (公財) 公益法人協会 | 12万円 |